〔論文〕

イエスの友会と賀川豊彦による神の国運動（３）

――神の国運動の開始――

黒　川　知　文

〈目　次〉

はじめに
１．神の国運動の開始
２．神の国運動の目的
３．神の国運動の性格
４．神の国運動の時期区分

はじめに

池澤夏樹の朝日新聞連載小説「また会う日まで」に，群馬県安中教会における賀川豊彦の講演について，以下の描写がある．

> 本当に引き込まれて聞き入りました．会衆みんな夢見心地でお言葉を聞いた．途中で落雷があって会場が真っ暗になったのですが，先生はまるで意に介しない風に講話を続けられた．そのお話以上にその場にいるみなが一体となっていることに強い感銘を受けました．[1]

図表１　「また会う日まで」『朝日新聞』朝刊2021年８月17日

これは1924年の安中教会特別講演会における賀川豊彦の講演の記録である．[2] 講演に全力を尽くす賀川の姿が理解できる．賀川はすでに同年に「神の国運動」という語を用いて，４年後の1928年，個人で日本全国に宣教運動を展開した．それはやがて日本基督教連盟と海外の基督教団体からも支援される宣教運動として大きく展開していった．

本稿においては，日本史において大衆を対象にした最大のキリスト教宣教運動である神の国運動の開始状況について考察する．

１　神の国運動の開始

1925年７月に開催されたイエスの友会第３回夏季聖修会において，「百万

197

198

大正14年7月　東山荘で第3回修養会　197　3rd Retreat at Tōzansō, July 1925

この年イエスの友会は「百万の魂を神に捧ぐ」を決議した　198　This year the Friends of Jesus resolved to *Offer One Million Souls to God*

図表２　イエスの友会第３回夏季聖修会　1925年７月東山荘

『賀川豊彦写真集』東京堂出版1988年，90頁

人の魂を紙に捧ぐ」との日本人の救いの目的が表明された.（図表２参照）これに基き1928年と1929年，主に賀川豊彦個人による全国的な協同伝道が実施された．この協同伝道は全国91か所で実施され，聴衆者23万名以上，志道者は9500名以上であり，賀川が最も多くの回数，巡回して説教した.

1929年４月に国際宣教連盟会長の J.R. モットが来日し，鎌倉と奈良において日本基督教連盟主催の特別協議会が開かれた．そこで賀川豊彦の案に基づく全国的伝道計画が提案された．連盟は賀川後援会とは別の中央委員会を組織して「神の国運動」を計画した．そして国際宣教連盟から15000円の寄付も受けて，1930年から３年間，年２万円の予算で全国的な宣教活動が実施されることになった.[(3)]

賀川個人が行った２年間にわたる全国的な宣教活動が国際宣教連盟と日本基督教連盟の協力により，全国的な宣教活動へと発展したということができる．この運動を支えたイエスの友会機関紙『火の柱』冒頭には，「今月の祈り　神の国のために全国会員が一緒になって祈りませう」が掲載されている.（図表３参照）

1929年11月，第７回日本基督教連盟総会に際し，開教第70年記念式の機会に，「神の国運動全国協議会」が組織された.

1929年11月６日午後６時から，日比谷公園内の東京市公会堂で開催された開教70年記念には，4000名という「基督教空前の大会衆」が集まった．記念会の第１部では，自由学園女学生300名が聖歌を合唱し，千葉勇五郎が司会，鵜崎甲午郎が祈祷，小崎弘道が記念式辞を述べた．そして，海老沢亮が壇上に坐す伝道歴50年以上の教職者16名に記念品を贈呈した．その後文部大臣，英国大使，米国大使，カナダ大使，東京府知事，東京市長が祝辞を述べた.

第２部の神の国運動宣言大会には，伝道50年の教職者を代表して井深梶之助と海老名弾正が感想を語り，神の国運動委員長である富田満が，神の国運動は「各教派，各団体，教役者，信徒，男女老若の総合的総動員により，一人のクリスチャンが毎年少くとも一人づつをキリストに導く実際的方法を以て，…日本人の思想及び生活のキリスト化を目標とする」と語った.[(4)]

昭和五年三月十日　火の柱　第三十三號　—1—

火の柱

第三十三號

聖き闘争へ

隠れたる七千人を求めよ

賀川豊彦

我々の時代はエリヤ、エリシヤの時代だと云ふことを、私は強く考へる。我々の時代は激戦の時代、偶像の時代である。権力の偶像、肉慾の偶像、間違つた知識の偶像時代である。そして我々は、良心宗教をもつて闘はなければならぬと云ふ争闘の激しい時代に遭遇してゐるやうに思ふ。然も我々の味方は尠く権力、知識は少く、生活費は窮乏するのみ、時代は悪く、不景氣が我々の生活を脅す。が、不思議に、闘争は我々の方に益になつてゐることを信ずる。私はエリヤ、エリシヤの時代の事を痛感する。少し大袈裟のやうであるが、私はそれを信ずる。我々の時代はエリヤ、エリシヤの激戦時代で、戦争するのに今日程面白い時代はない。我々が闘争的精神を持たなければ、激しいバール、アシタロテの神々に勝つことが出来ない。敵はアシタロテの爲に四百五十人、バールのために四百人の神主、合計八百五十人を雇ふてやつてゐる。そして我々の正義の方に立つものは少い。バールの神は、土地の神、經済上の神で、五穀豊穣の神である。アシタロテは性慾の神で、今日の時代は、この二つの經済上の神と、性慾の神とを持つてゐる。我々はこの二つの敵と闘はなければならぬ。我々はマルクスの間違つた思想と挑戦しなければならぬ。

多くの者はこの二つの敵れかに屈してゐる。東京府會議員の遠藤氏と云ふ者は、遊廓から選出されたアシタロテ組である。社會民衆黨も他の無産黨もバールに屈してゐる。我々はエリヤについてゐる。がそのエリヤに屈するものは皆眼抜けばかりである。けれど隠れてゐる連中がゐる。聖書には七千人隠されてゐると書いてあるが（ロマ書十一ノ四）この七千人を押し出さなければならぬ。神の國運動はこの隠されたる七千人を探す運動である。隠れたる者を探し求めねるので決して無理してするのではない。日本に於て今何萬人か隠れてゐる。最近私は四萬以上の人から、我々の同志に參加すると云ふ決心カードを貰つた七千人ゐることは確に判つてゐる。

我々は生活に就ての心配も要らない。鳥が來て養つてくれる。烏の次にはサレバチの寡婦がゐる。過去一年間どうして私は生活出來ると思つただらうか。全國傳道には出てゐるし、東京市役所には月給なしで働いてゐるし、それで食つて行けたのが不思議である。そこにミス・タツ

今月の祈り

神の國運動のために

全國會員が一緒になつて祈りませう

図表３　『火の柱』33（1930年３月10日）

その後司会者により紹介された賀川は，「割るるが如き拍手の中に」，「日本教化の理想」と題して語った．「氏が熱弁を揮はれるや満堂酔へるが如く，一斉に起る拍手は，秋深き日比谷の空を揺るがせた」[5]と記されている．

続いて村松吉太郎が信徒大会決議文を朗読し，感謝献金の後，平岩喧保の祝祷で閉会した．

このようにして，1930年から1932年にかけて展開したのが，狭義における神の国運動である．

2　神の国運動の目的

『神の国新聞』には，神の国運動宣言大会で「日本教化の理想」と題して賀川が語った運動の目的が，以下のように紹介されている．

> 日本を神の国にしたい．我が日本を神に献げたい，神は日本を愛し給ふが故に，その昔フランシス，ザビエルを送られた，又フルベッキ，ブラオン等を遣はし給ふた．思想界の問題として居るマルクス主義も共産党問題もやがて過ぎ行く思想であって神の永遠に比べて何でもない…我々の運動は神の運動である，聖書が一人一人の心の扉に訪ふ時に慰めの御言葉を拝することが出来る．信仰より，希望より大なるものは愛である，永遠への梯子は愛である，我々の運動が，神への梯子でなくてはならない[(6)]

「日本を神の国にする」という運動の目的．これは，すでに1925年７月に東山荘において開催された第３回イエスの友会聖修会において決議された「百万人の霊を神に捧ぐ」をさらに拡大したものであった．（図表３参照）

このように神の国運動は，開始の時点においては，社会改革運動ではなく，何よりも日本の救霊を目的とするキリスト教宣教運動であった．

3　神の国運動の性格

超教派の運動

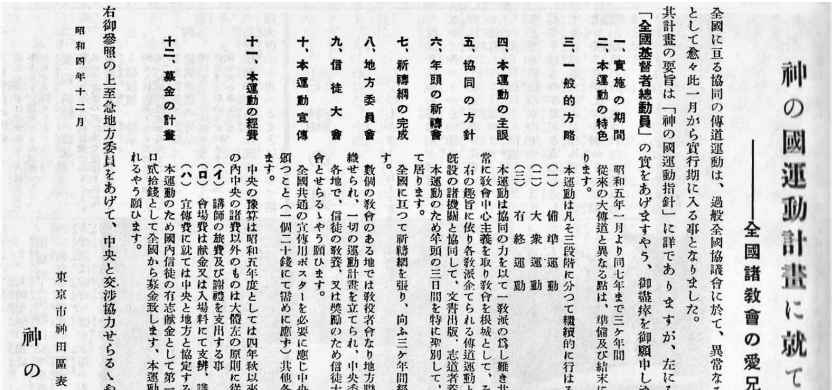
神の国運動委員長である富田満が宣言したように，神の国運動は「各教派，各団体，教役者，信徒，男女老若の総合的総動員」によって，すなわち，超教派の運動として展開した．

教派から見ると，日本基督教会，組合教会，メソジスト教会，聖公会，バプテスト教会，ルーテル教会が運動に参加した．

神の国運動事務所による「神の国運動計画に就て―全国諸教会の愛兄姉に

訴ふ―」を見ると，4，本運動の主眼に「本運動は協同の力を以て一教派の成し難き共同戦線を張り」，5，協同の主眼には「各教派企てられる伝道運動と緊密に相提携し相補足する」「既設の諸機関と協同して，文書出版，志道者養成等諸般の事に貢献せしむる」とあり，超教派の運動であることがわかる．また，4，本運動の主眼に「常に教会中心主義を取り，教会を根城として，その充実発展を期します」とあるように，個々の教会の活動をも生かし，教会を基盤にした上での超教派の宣教活動であったということができる．[(7)]（図表４参照）

賀川自身の神学は，プリンストン神学校で学び日本基督教会牧師であるからカルヴィニズムである．だが，神の国運動は超教派運動として展開した．前述した神の国運動宣言信徒大会の委員長は，富田満（日本基督教会）であ



神の國運動計畫に就て

――全國諸教會の愛兄姉に訴ふ――

全國に亘る協同の傳道運動は、過般全國協議會に於て、異常なる熱誠を以て討議せられ「神の國運動」として愈々此一月から實行期に入る事となりました。

其計畫の要旨は「神の國運動指針」に詳でありますが、左にその要項を摘録して御參考に供し、眞に「全國基督者總動員」の實をあげますやう、御盡瘁を御願申します。

一、實施の期間　昭和五年一月より同七年まで三ケ年間

二、本運動の特色　從來の大傳道と異なる點は、準備及び結末に力をそゝぎ、凡て教育的に計畫される事であります。

三、一般的方略　本運動は凡そ三段階に分つて組織的に行はるべき事

(一)　準備運動

(二)　大衆運動

(三)　有終運動

四、本運動の主眼　本運動は協同の力を以て一教派の爲し難き共同戦線を張り、大衆に向ふて挑戦すると共に常に教會中心主義を取り教會を根城として、その充實發展を期します。

五、協同の方針　右の趣旨に依り各教派企てられる傳道運動と緊密に相補足する筈であります。又既設の諸機關と協同して、文書出版、志道者養成等諸般の事に貢献せしむる筈であります。

六、年頭の新聯會　本運動のため年頭の三日間を特に卒別して、各地教會令で新聯會催されることを期待して居ります。

七、新聯網の完成　全國に亘つて新聯網を張り、向ふ三ケ年間絶え手前による偏を續くるやう希望して居ます。

八、地方委員會　數個の教會のある地では教役者會なり地方聯盟なりの發旋で、神の國運動地方委員會を組織せられ、一切の運動計畫を立てられ、中央委員と協定せらるゝ事を望みます。

九、信徒大會　各地で、信徒の教養、又は挑躍のため信徒大會を催さるゝ場合は、之を準備又は前進の機會とせらるゝやう願ひます。

十、本運動宣傳　全國共通の宣傳ポスターを必要に應じ中央より送り廣く用ふる事、又信徒佩用の徽章を頒つこと（一個二十錢にて儲めに應ず）其他各種の方法による宣傳に努力せらるゝやう望みます。

十一、本運動の經費　中央の豫算は昭和五年度としては四年秋以來の準備経費を加へ、金參萬圓であります。此の内中央の諸費以外のものは左の原則に從つて地方のために支出せらるゝ筈であります

(イ)　講師の旅費及び謝禮を支出する事、講師滯在費は地方にて負擔を願ふ事

(ロ)　會場費は献金又は入場料にて支辨

(ハ)　宣傳費に就ては中央と地方と協定する事

十二、募金の計畫　本運動のため國内信徒の有志献金として第一年度に金五千圓を豫算して居ります。之は一口貳拾錢として全國から募金致します、本運動に參加される印として全國の信徒が献金せられるやう願ひます。

右御參照の上至急地方委員をあげて、中央と交渉協力せらるゝやう希望致します。

昭和四年十二月

東京市神田區表猿樂町十

神の國運動事務所

振替東京八〇九一八番

図表４　「神の国運動計画に就て」『神の国新聞』第575号，1930年１月７日

り，顧問には海老名弾正（日本組合教会），井深梶之介（明治学院名誉総理），平岩喧保（日本メソジスト教会監督），小崎弘道（同志社社長）がいた．教派別にみると，日本基督教会，組合教会，メソジスト教会，聖公会，バプテスト教会，ルーテル教会が参加し，日本基督教連盟が運動を主催するようになった．中田重治のホーリネス教会は参加せず，この期間に発行された同教団雑誌『きよめの友』において一度だけ神の国運動を批判している．「『神の国新聞』の信仰問答欄に左の如く出て居る．『仏壇は其儘にしておいても差支ないではありませんか．不必要なものは自然になくなります．しかし先祖の位牌に対して敬意を払つたり，仏式祭典などの場合に焼香などする事は基督者として必ずしも改宗背信の行為ではないと思います』これ実に各派協同の進言を裏切るところのものである．されば牧師伝道師にして神社を参拝するやうな阿世の徒が起るのである．これがどれだけ我等の伝道の邪魔をするか知れない．基督教が羅馬に伝つてから，かの国の神社と正面衝突をしたしかるに斯教は偶像教と妥協しはじめ，其結果羅馬を教化する筈の基督教が羅馬化して終ひ，終に今日の天主教を生み出した[(8)]」

内村鑑三は1930年３月に召天した．『神の国新聞』には「故人今人　人と文　内村鑑三」のコラムがあり，内村の写真と「宗教は絶対的である」から始まる内村の追悼文章が掲載されている[(9)]．

賀川は，内村には敬意を示していたことが分かる．だが，無教会は神の国運動には不参加であった．

実際に神の国運動で演説した者は，地方の場合，基本的には地元教会の牧師や宣教師であった．外部から招待されて演説した主だった者は，賀川豊彦以外に，海老名弾正，山室軍平，木村清松，小崎弘道，平岩喧保，河辺貞吉等，金井為一郎，杉山元治郎，植村環，河井道，海老沢亮等であった．いづれもキリスト教界の有力者である．

また，『神の国新聞』において，神の国運動について好意的に論じた主な人は以下の通りである[(10)]．

小崎弘道　松井米太郎　吉岡誠明　海老澤亮　井深梶之助　海老名弾正　金井為一郎　日野原善輔　日高善一　後藤粂吉　植村環　小崎道雄　平岩愃保　千葉勇五郎　真鍋頼一　額賀鹿之助　松野菊太郎　安井哲子　亀谷俊雲　西條寛雄　桑田繁太郎　釘宮辰生　溝口悦次　堀峰橘　大野義信　平田平三　小泉要太郎　産形与一　安村三郎　片谷武雄　山内六郎　森俊治　中村正路　尾崎和夫　安田忠告　井田健司　石川保五郎

牧師を中心にして，様々な分野における有力者が論じていることが分かる．

大衆への宣教運動

賀川は，神の国運動宣言大会において，神の国運動の具体的対象に関しては「神の国運動は，街頭に，工場に，学校に，会社に，農村に漁村に愛の実行のリーフレットを与えることである，十字架を負って黙して行けば，忍耐の中に，イエスの姿が現はれるのである．変る世に，変らぬものは，愛の運動である」と述べている．[11]

賀川の言葉から，神の国運動の性格が理解できる．それは，超教派の運動で，都市の知識階級だけでなく，一般大衆をも宣教の対象にした運動であった．（図表５参照）

神の国運動では，全国は90の地区に分けられ，これには台湾，朝鮮，関東州も含まれている．この90の地区に，神の国運動地方部委員会が設けられた．（図表６参照）さらに，統括部，伝道部，教育部，宣伝部，社会部，農村部の６つの部が設けられた．神の国運動は，日本の教会史上，最大の組織的伝道であった．

神の国へ」（『神の国新聞』585号、1930年3月

図表５　『神の国新聞』585号，２頁

運動の経費に関しては，1930年度は準備

神の國運動地方委員會表（昭和五年二月（二十八日現在）

地方名	委員長又ハ書記	住所
北海道東部	鵜飼吉次	北海道釧路市西幣舞十九
札幌	小野村林蔵	札幌市北一條西六
小樽	鈴木磯也	小樽市稲穂町八ノ三〇小樽教會
盛岡	仁木寡九市	盛岡市大澤川原町六番地
仙臺	横山虎雄	仙臺市大町二丁目十番地
秋田	星野文吉	秋田市下長町六番地
鶴一	白井鶴治郎	山形縣鶴岡市君葉町四
福岡	河合福三	福岡市新町二〇ノ二六日本基督教會
嶋町	中村晴次	福島縣平町中一五ノ二六日本基督教會
東京	渡辺二郎	東京市麹町区内山下町一ノ一
横濱	毛利官治	横濱市伊勢町七四バプテスト教會
川崎	大脇鑛司	川崎市小川町一六四バプテスト教會
浦和	飯田外七	神奈川縣浦和市鷺宮二〇一〇
木原	木原勇司	静岡縣富士郡鷹岡村人山淵二二九
千葉	千葉縣大原町	千葉縣大原町坂東大原福音教會
駿州	中村勝次	静岡縣焼津町御休町
静岡	濱宗治	静岡市迫手町一〇二メソヂスト教會
濱岡	宮崎繁暫	静岡市一泉町塩松メソヂスト教會
清水	矢内馬久	静岡縣中清水二六七
中遠地方	清水治郎	静岡市東千種町宛吉井三二九福音ルーテル教會
名古屋	田中亀之助	名古屋市八ツ梅町三丁目七五八
岐阜	宮ノ原信次郎	岐阜市宮ノ原町九六福井教會
福井縣	秋保孝次郎	福井市宝永上町九六福井教會
富山	齊藤作三	富山市二番町
石川縣	藤井悦蔵	金澤市石浦町
滋賀	山吉田金作	近江八幡町魚屋町
京都	伊口治	京都市島丸三條上ル平安教會
津	前田直太郎	京都府下宮津町宇鶴賀一ノ一
長浜	長治	大阪市天王寺区島ケ辻町三四
大阪	深田直太郎	大阪市本町堀詰入和歌山教會
和歌山	浜二郎	和歌山市三番丁三四
神戸	鈴木治二郎	神戸市下山手通六ノ一八神戸教會
山陽	鈴木次郎	岡山市鹿田町下一〇二
高松	沼田作	高松市三番町
徳島	高橋藤作	徳島市北佐古町十三
愛媛	秋元藤次	愛媛縣今治市御幸通り
松山	菊原藤三	松山市二番町メソヂスト教會
高知	國藤次	高知市八幡通メソヂスト教會
愛縣	愛縣作	愛縣伊井町一〇九
南九州	吉本吉之助	鹿兒島市荒田町メソヂスト教會
豊後地方	白阪戸良助	別府市高砂町
福岡	高島直久	福岡縣直方裏町七十二福音ルーテル教會
筑後	貞崎敬作	福岡縣久留米市大学校四番町メソヂスト教會
別府	擬尾郎	別府市市場町
大分	大崎敬	大分市市場町
豊後	擬尾郎	豊後竹田町
小倉	石谷一	小倉市紺屋町一番
福岡	丸山幸三	福岡縣直方紺屋町一番
佐賀	佐保正	佐賀縣佐賀市本庄町十四
長崎	本荒瀬吉	長崎市西濱町二丁目一九八
佐世保	松本高助	佐世保市大塩町二丁目一九八
熊本	石丸幸一	熊本市二番町メソヂスト教會
鹿兒島	上野直一	鹿兒島縣川内町日本メソヂスト教會
川内	與一郎	川内町八ノ三日本基督教會
阿久根	石原直一	阿久根市平松二丁目二番地
出水	新郎	出水市麻宮町二番地
鹿屋	二郎	京都北市宝町八日本基督教會
大隅	大隅直一	大隅市中町二丁目二番地
大口	大口宣郎	大口市鍋倉町二丁目二番地
臺北	臺北	臺北市宝町八日本基督教會
新竹	新竹	新竹市中正路二丁目二番地
臺中	臺中	臺中市紅一番教會
臺南	臺南	臺南市末廣町二丁目二番地
臺北	臺北	臺北市末廣町二丁目二番地
臺東	臺東	臺東市末廣町二丁目二番地
臺中	臺中	臺中市末廣町二丁目二番地
臺南	臺南	臺南市末廣町二丁目二番地
臺北	臺北	臺北市末廣町二丁目二番地
臺東	臺東	臺東市末廣町二丁目二番地
臺中	臺中	臺中市末廣町二丁目二番地
臺南	臺南	臺南市末廣町二丁目二番地

図表６『神の国新聞』583号（1930年３月５日），７頁

費が３万円（現在の価格で１億5000万円）あり，中央の諸費以外のものは地方のために支出される，その原則は（イ）講師の旅費及び謝礼（ロ）会場費は献金又は入場料によって支払い，講師滞在費は地方にて支払う（ハ）宣伝費は中央と地方が協定する事，とされた．募金計画は，第年度に5000円（2500万円）を予定している．[12]

財源としては，賀川の小説の印税，海外からの支援金，日米教会の献金があったと推定される．

1930年１月20，21日の夜に大阪神の国運動は，中央公会堂において開催された．20日は池澤駿太郎，釘宮辰生，畠中博，21日は桑田繁太郎，河辺貞吉，木村清松が話し，両夜にて約9000名の聴衆を与えられ，求道申込みは100名近くあった．最初の神の国運動から大きな成果があった．

4　神の国運動の時期区分

本稿で扱う神の国運動は，正式に発足する以前の賀川による宣教運動も加えて，1928年６月から1932年12月までに限定する．

図表７　神の国運動の時期区分

時期名と期間	運動地方・集会数	主な出来事
開始期 1928.6―12 1929.1―12	神戸・大阪・高山・軽井沢・金沢・福井・富山・熊本・北海道 集会数：300 東北地方・九州地方・中国地方・四国地方・大阪・東京 集会数：596	張作霖爆破事件1928.6 1928.8不戦条約締結 昭和恐慌始まる1929.1 世界恐慌1929.10 宣教開始70年記念式典で「神の国運動」正式に発足1929.11.6
発展期 1930.1―８	小倉・広島・賀川・山口・大阪・滋賀・愛知・東海地方・千葉・茨城・東北地方・北海道・上海・満州・布哇 1930年：集会数292	神の国運動宣言大会1930.1― 金解禁1930.1 海軍軍縮会議日米協定案調印1930.4 石川県で禁酒大講演会1930.6 山口県で廃娼連盟久布白講演1930.6 浜口雄幸首相狙撃事件1930.11 農民福音学校指導者養成協議会1931.4 日本宗教平和会議1931.5 賀川海外伝道へ出発1931.7 青森市農民福音学校1931.8
教育期 1931.9― 1932.12	京都・名古屋・信州・中国地方・東京・群馬・東北地方・台湾 1931年：集会数351 1932年：集会数320	満州事変1931.9 各地で農民福音学校1932.1― 東京で第１回日本福音学校1932.2 血盟団事件1932.2 満州国建国宣言1932.3 5.15事件1932.5 上海事変1932.7 日満議定書調印1932.9 第２期神国運動総委員会1932.12

「神の国運動全国状勢」「神の国運動表」（『神の国新聞』1930年１―1932年12月掲載）より著者作成

神の国運動は三時期に区分される．（図表７参照）

〔注〕

（１）　小説では，群馬県榛名結核療養所の原正男が19歳の時に聞いた賀川の講演についての印象である．連載小説は後に出版された．池澤夏樹『また会う日まで』朝日新聞出版 2023年，477-478頁．

（２） 日本基督教団安中教会『安中教会史』新教出版社 1988年，335頁.
（３）『神の国新聞』575号（1930年１月７日），２頁.
（４） 同.
（５） 同，2-3 頁.
（６） 同，１頁.
（７） 同，３頁.
（８）『きよめの友』1220号（1930年６月19日），巻頭.
（９）『神の国新聞』659号（1931年８月19日），３頁.
（10）『神の国新聞』576号（1930年１月14日），７頁.
（11）『神の国新聞』575号（1930年１月７日），１頁.
（12） 同，３頁.